

## 第4期中期目標期間における愛媛大学独自の中期計画に準ずる計画一覧

愛媛大学独自の中期計画に準ずる計画	
1	合理的配慮を希望する学生を対象とした愛媛大学独自開発の学習管理システムを活用することで、障がいのある学生などの多様な学生にきめ細かい学習支援を推進する。
2	地域協働型センター（西条、南予、中予）は学部・研究科・学環と協力し、それぞれの地域拠点として愛媛県民のファーストキャリア、セカンドキャリア、サードキャリア等の人生に寄り添って、「地域に置ける地（知）の拠点」として多岐にわたる支援を、産学官金のステークホルダーを発掘・協働して With コロナ社会における地域サポートを行う仕組みを整備していく。
3	本学の研究に関する広報活動を推進するとともに、本学のプレゼンスの向上を強化し、外部資金の獲得や若手研究者の登用を促進するため、リリース資料のスキルアップ講座の開催や、図等のリリース資料の作成をサポートする専門職員の配置等により、効果的な広報資料の作成をサポートし、報道機関の担当記者対象の情報交換会を開催するなどし、情報発信力を高める。
4	世界の地域と愛媛の地域とを結ぶ国際拠点として、国際教育文化協力、国際地域開発協力、国際復興支援協力の観点から、JICA や国際機関等との連携強化を通し、「国際貢献」の機能を拡張するとともに、地方自治体・地域企業・NPO/NGO 等と協働し、地域の「グローバル人材開発」に貢献するプラットフォームを構築する。
5	社会共創学部では、地域社会の基盤を支える各専門領域の人材を育成するとともに、地域に根差し、社会を牽引する「社会共創実践リーダー」を育成するための教育プログラムを構築する。
6	<p>医学系研究科・附属病院及び農学研究科で実施する様々な事業（感染症人材育成事業、愛大コーホート研究、バイオデータバンク構想、愛媛ワンヘルス感染症連携協定、東温健康医療創生事業、愛媛 Food Camp 等）について、公衆衛生学環を核とした「えひめ地域健康プラットフォーム」を介して連携することにより、その研究成果や研究試料などをデータ化し、愛媛県全域の医学・健康データベースを構築することで、未病医療や精密医療へと発展させる。</p> <p>さらに、疫学データと機能性分子解析データを組合せ、個人個人が抱える健康課題に合わせたテーラーメイドな生活改善策、特に食生活改善策を DX を活用して効果的に配信する体制を構築し、医農融合公衆衛生学環の教育に活用する。その成果をえひめ地域健康プラットフォームを通じて、地域に還元することにより、地域の強みを高める公衆衛生学の展開、食を通じた健康増進（トータルヘルスケア）を推進し、健康寿命の延伸につなげる。</p>
7	オール工学部で設置した工学部附属センター群であるエンジニアリングモールを発展させて、「エンジニアリングモール 2.0」として、地域連携プラットフォームなどを構成する愛媛県の主要産業分野を駆動させるための取組みを行う。

8	<p>現代社会の大きな課題である「脱炭素化社会への転換」、「循環型社会の構築」、「気候変動への適応」は、地域社会にも大きな影響をもたらし、変化、「これまでどおり」からの脱却を強いる。</p> <p>これらの課題について、農学研究科では、国際共同研究等に基づく国際的な視野から地域社会を俯瞰し、地域的な視点から「知」の社会実装を積極的に進め、環境変動により生じる社会的影響に適応できる社会システムを地域社会に構築する。このことの実現のために、農学研究科を中心とする農林水産業コミュニティーを地域社会に形成し、一丸となってこれからの時代に求められる「脱炭素・循環・気候変動適応」型農林水産業の創出を果たす。これらにより、地域農林水産業の活性化・強靱化と、「地域社会に頼られる農学部」の実現を目指す。</p> <p>また、「脱炭素・循環・気候変動適応」は世界共通の課題であることから、これらに係る社会実装の実績を重ねることで、国際競争力を身に付ける。</p>
9	<p>学長のリーダーシップの下、性別、年齢、国籍、障がいの有無、性的指向・性自認、人種、民族、文化、宗教などの違いにかかわらず、多様な人材によって構成されている組織を構築するため、ダイバーシティに関する数値目標等の達成に向けた取組みを行う。</p>
10	<p>愛媛県の医療の中核を担う愛媛大学医学部附属病院に一次医療圏から三次医療圏までを全方位でカバーする診療支援システムを展開し、愛媛大学医学部附属病院が保有する医療資源の最適な配置を通して愛媛県の医療環境を向上させる。また院内業務についても EU-DX と連携しつつ業務改善を推進する。</p> <p>さらに患者に関する情報を電子化し提供することで、患者の健康増進に寄与しつつ、院内の医療安全、病院経営の向上、臨床研究のリクルート拡大を通して地域の健康増進と中核研究機関としてのプレゼンス向上につなげる。</p>